

# S.G. Report

1年SGコース夏季研修第2陣として、19名の生徒が熊本大学コンソーシアム熊本へ研修に行きました。第1陣の北九州学術研究都市での研修と同様に、熊本市内の宿泊施設を準備し、日中は熊本大学で研修を受け、宿泊施設でも研修や班活動を行いました。

## 1年SGコース夏季研修 熊本大学・大学コンソーシアム熊本

【研修日程】日 時：平成29年8月8日（火）～平成29年8月10日（木）

1日目 午後 開校式

- 〔研修1〕本研修の概要説明、参加する留学生の自己紹介など
- 〔研修2〕①環境に関する講義(Professor Cristopher Johnson)  
②留学生による母国紹介、熊本での学生生活や研究についての紹介  
③グループワークを進めるうえでの留意点について
- 〔研修3〕留学生とのグループ交流  
(本校生徒による自己紹介、アイスブレイキング、環境に関する質問など)
- 〔研修4〕本日の振り返り、翌日の準備

2日目 午前

- 〔研修5〕留学生とのグループ交流
- 〔研修6〕フリーインタビュー準備  
\*ポスタープレゼンに向けてのデータ収集を兼ねたフリーインタビューの準備  
\*アンケート結果検証のために、グループごとのテーマに沿ってアンケートの取り方などを留学生にアドバイスをもらいながら準備

午後 〔研修7〕フリーインタビュー（グループ活動）

- 〔研修8〕国際学生による（環境または研究活動に関しての）モデルプレゼンテーション
- 〔研修9〕ディスカッション・まとめ

グループごとに交流で学んだ内容をまとめ、翌日の発表の準備を行う。

国際学生はいずれかのグループに固定でサポートに当たる

〔研修10〕本日の振り返り、翌日の準備

3日目 午前 〔研修11〕グループによる英語プレゼンテーション  
閉校式



### 【生徒の感想】（抜粋・おおむね原文のまま）

●この研修を通して様々なことを学ぶことができた。留学生との交流は、とても緊張したが、優しく接してくれたので、気軽に交流することができた。留学生はネイティブで聞き取るのにとっても苦労したが、ゆっくり話してくれたり、自分たちに分かるように工夫してくれたので、話を理解することができた。英語でのポスタープレゼンということで、最初の方は何をどうすればいいのかよく分からずに苦戦していたが、留学生のアドバイスを取り入れながらまとめていくことで、最後には満足いくようなポスターができたし、英語のプレゼンも、ジェスチャーなどを取り入れることで、自分たちの伝えたい事を伝えられたのでとてもいい経験になった。この研修で、班のみんなと協力することの大切さや自分から積極的にコミュニケーションをとることの重要性を学ぶことができた。これから、世界はさらにグローバル化が進み、外国の人と接する機会ももっと増えていくと思う。そんな時にでも、今回の経験を活かして、積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思う。



●今回の研修を通して外国の人とコミュニケーションをとることの難しさがとてもわかりましたし、どうにかして伝えることができたり、理解することができた時の喜びを得ることができました。このSGクラスに入って英語や発表の練習は学校でしていましたが、いざ実際にしてみると話すスピードはとても速く、うまくコミュニケーションがとれませんでした。しかし、研修を通して少しずつ慣れていき、自分の足りない部分を痛感するとともに、様々な人とコミュニケーションをとる喜びを学びました。1日目、あまりに難しいプレゼンを聞きました。留学生の説明も半分以上が分らず、最後まで、何もできませんでした。その後留学生と交流があったものの、最初のプレゼンのショックが大きく積極的な発言ができませんでした。2日目、1日目のくやしさを取り返そうと、自分なりに一生懸命にとりくみました。工学部に通っている留学生に彼らの研究について教えてもらったときも、半分くらいしか理解できませんでしたが、1日目とは明らかに違う「聞き手」になれたように思えます。3日目の発表の準備にとりかかったときも、留学生の協力を得られたおかげもあり、素晴らしいポスターがどの班よりも先に完成しました。そのまま、発表は大成功し、その後の発表で、1位をとることができ、とても感激しました。私はこの3日間で、「喜び」よりも「悔しさ」の方を味わうことになりましたが、ほんの少し「喜び」を得たことが、この研修で得た一番の成果であると考えます。これからは喜びと悔しさを忘れることなく、日々の努力を維持していきたいと思えます。

●今回の研修を通して学んだことはやはり自分の“英語力”の無さだ。確かに積極的に話しかけることやアイコンタクトなども大切だが、最低限の英語の力がなければ相手のことを理解することができず、環境問題においても深いところまでアドバイスや意見がもらえたり、討論をすることができた。この研修では、3日間ずっとそばに英語があるという環境で留学生と交流したことで少し英語への苦手意識がうすくなったように感じられる。留学生は、私たちの述べることを理解してくれようとしてくれたり、自分たちの国のことについて教えてくれた。留学生のポスターを使ったプレゼンテーションは理解することはできなかったが自分たちのポスタープレゼンにつながるポイントを見つける





ことができた。アイコンタクトの主張したい部分のアクセントを強めるポスターの構造など、私たちが自分たちのテーマである「次世代にエネルギーを伝え残すためには」というものの中で留学生に自国のエネルギー割合について質問した際には、相手との意思疎通をおこなうことができ、英語はやはりコミュニケーションを行う重要な手段、方法であると思った。今回の研修を通して、語彙力の無さ、英語力の無さを痛

感した。自分にその力が備わっていないことで、自信がなく、相手とのコミュニケーションも上手くはかることができなかった。だからこそ、毎日の単語、英語にかける時間をもっととり、英語力の向上を目指していきたい。研修3日間は相手の英語を理解することだけで一杯一杯だったが、今後はテーマなどについても発展させた会話ができるようになりたい。自分の意見を英語ではっきり言えるような英語力、そして今後を自信をつけられるようがんばっていきたい。

●私がこのSG研修を通して学んだことは3つあります。まず1つ目は、相手の言おうとしていることを理解しようとする気持ちと、自分の考えを伝えようとする気持ちの大切さです。留学生にポスタープレゼンについて内容を伝えようとしたとき、私の拙い英語はきっと分かりにくかったと思いますが、一生懸命、真剣に話を聞いてくれました。また、留学生がアドバイスをくれる時、最初は何を言っているのか、2割程度しか分からなかったのですが、最終的には7割分かるようになりました。2つ目は、自分の言いたい事や考えが、伝わるかどうか不安であっても、勇気を出して伝えようとする大切さです。ポスタープレゼン後の質疑応答の時間で、留学生が質問をしてくれているのに、発表側は何を伝えるか分からず沈黙が続くということがしばしばありました。分からないのであれば、「分からない」と伝えた方がいいのに、と思いました。質問者に諦めを求めるような沈黙の方がよほど恥ずかしいと思います。3つ目はコミュニケーションを取ることです。そのツールとして便利なものが英語です。英語は万国共通の言語であり、様々な考えや見解を持った人との交流を可能にしてくれます。そういった面でも、英語は欠かせません。もっと英語を理解できるようになり、英語で自分の意見を伝えられるようになり、世界のいろいろな人と関わっていきたくです。そして自分の視野を広め、豊かな人間になりたいと思います。今後、どんな仕事にも英語は必要とされると思います。私たちにってはなかなか生きた英語に触れる機会はその多くはないので、今後もこのような外国の人と触れ合える機会があれば、積極的に参加したいと思います。また、日ごろの英単語の学習も怠ることなく取り組んでいきたいと思いました。

